

日常的には、次の二点を示した指導案をつくるとよい。

中心発問・指示を枠組み化して明示  
教師の活動、子どもの活動を二分化しての明示

13 I 授業の腕を上げる指導案とは		
<b>第○学年○組 国語科学習指導案</b>		
□年□月□日 ( ) □時限 (40) 分授業 指導者 [ ( ) ]		
1 教材名・単元名 「しまうま」(まど・みちお作)		
2 本時のねらい タイトルを検討することによって、意外な世界をイメージ喚起させ、詩を読解することの面白さを味わわせる。 [意欲・関心、読解力]		
3 指導過程		
時間	教師の活動	子どもの活動
5分	1 いきなり、次のように板書をし、ノートに筆記するように言う。 [ ] まど・みちお 手製のおりに入っている	○板書を見ながら、ノートに筆記する。 ○題が隠してあることに気づき、それを考えるのだろうということを予想する。
1分	2 3回音読させる。	○一斉に音読する。
12分	3 次の発問・指示で題を予想させる。	○題を予想する。
発問1 手製のおりに入っているものが、そのままこの詩の題になっています。どんな題でしょう。 指示1 思いついたものを3つノートに箇条書きにしてください。		
2分	4 子どもたちが、ノートに筆記している間に、黒板に、A、B、Cの3つの筆記コーナーをつくっておく。	○3つ書いたら教師のところを持っていく。
15分	5 ノートに書かれた3つの言葉の中の一つを板書するように言う。その際、A、B、Cのどこに書くかを言う。	○次のような意見が出されるであろう。 A ねずみ、きりん、くも、へび、トラ、小鳥 B 自分、私、心、うそ、ひみつ、なみだ、犯人 C 地球、すし、詩
5分	6 板書されたものを、すべて、ノートに筆記させる。	○ノートに筆記する。
5分	7 A、B、Cの仲間は何かを問う。Cはその他のものであることを言う。	○Aは動物である。 ○Bは人間にかかわることである。
5分	8 出された言葉を検討させる。	
発問2 これらの中で、この詩の題としてふさわしくないものはありませんか。 指示2 ふさわしくないものに、△をつけて下さい。		
5分	○反対意見を発表させる。  ○賛成のものに○をつけさせたあと、発表させる。	・くもに反対…おりではにげてしまう。 ・小鳥に反対…おりでなく、かごに入れる。 ・トラに反対…手製だとこわれてしまう。 ・私に賛成…自分でつくったおりに入っている。 ・秘密に賛成…もっているひみつを隠している。 ・地球に賛成…温暖化で苦しんでいる。
5分	9 作者がつけた題を紹介する。	○作者がつけた題を知る。
説明 まどさんがこの詩につけた題は、「しまうま」です。みなさんがつけた題の中にも、すばらしいものがあります。 指示 今日、出た題の中ですばらしいと思うものを2つ選び、◎をつけて下さい。		
5分	○しまうまの絵を見せて説明する。 ○しまうまの黒いしまをおりの棒に見立てていることを言う。 ○おもしろそうなものを数点選び、音読させる。	○すばらしいと思う題を2つ考える。 ○音読する。 例 ひみつ 地球 手製のおりに入っている 手製のおりに入っている

発問1は、簡単な問いである。発問しなくても、題を隠して、作者、詩の本文を板書しただけで、題はなんだろうと疑問がわくであろう。その疑問を、そのまま発問にしたわけである。指示1には、ちょっとした工夫がある。あえて3つ書かせることにより、思考を促している。「書

いたら持ってくる」ことを指示し、意欲をかき立てようとしている。

もし指示1がなかったら、子どもたちは、すぐに答えてしまうだろう。これでは、私の計画した授業にはならない。

たったひとつの指示によって、思考の質が変わる。授業がまるで変わってしまう。このように、指示は、かくも重要なのである。

発問2で、「ふさわしくないもの」を問う。そして、「ふさわしくないもの」に△をつけさせる。せっかく意見を出したのに、反対されたら、いやな気持ちになると思うであろう。しかし、反対を出したあと、賛成を出させる。これが討論の際の基本である。逆にすると、うまく展開しにくい。思考が深まらない。

ここで、発問と指示の違いを考えておく。

発問……思考内容の提示
指示……思考方法の提示

つまり、「子どもに何を思考させるか」を示すのが発問である。

その際、「どのように思考するのか」を示すのが指示である。

発問・指示を指導案に書くときに、気をつけたいことがある。**授業で発する発問・指示と同じ言葉を指導案に書く**ということだ。

授業中、子どもの発言や、そのときの状況によって、教師の言葉も変わっていく。それが当然である。しかし、中心になる発問・指示の言葉は、しっかりと吟味して、用意した言葉通りに発すべきである。

<須田尚氏>

発問・指示等による学習の流れ	指導上の留意点及び手順の意味
----------------	----------------

<荒川文雄、江田和主氏等>

学習活動と児童の思考	教師の発問・指示・留意点
------------	--------------

<大原聖寿氏>

発問・指示・児童の思考	留意点
-------------	-----

<鈴木健二氏>

学習活動	指導上の留意点
------	---------

<有田和正氏>

予想される学習活動	指導上の留意点
-----------	---------

子どもの活動	教師の活動
--------	-------

子どもの活動を重視しているかのように見える。この形も悪くない。しかし、実際に授業を計画ときには、まず、教師の活動（手だて、働きかけ）を先に考えることになる。それを指導案に記入する。それを見ながら「子どもの活動」をイメージしていく。「教師の活動」に対応した「児童の活動」を、あたかもキャッチボールをするかのように記入していくのである。これが自然ではないか。

<岩下修氏>

教師の活動	子どもの活動
-------	--------